YOUNG POWER ～若者の力～

新たな動植物園の楽しみ方を創造

昨年12月に全面開園した熊本市動植物園内には、学生のアイデアが活かされた動物の看板や飼育に関する展示物が設置されています。手がけたのは、東海大学チャレンジセンター 動植物園プロジェクトのメンバーたち。熊本地震後、阿蘇から熊本市内へ拠点が移った際に実習先として縁を持ったのが動植物園でした。「子どもにも分かりやすい看板は、思っていたよりも難しかったです」と話すのは、リーダーである農学部応用動物科学科４年の松本みどりさん。

チンパンジー舎では、飼育されている動物たちが本来持っている行動を引き出せるよう飼育環境を整える「エンリッチメント」という取組みについて紹介。チンパンジーが過ごす舎の間取りや立体的な空間についてできるだけ字を少なくして図説したほか、子どもが親しめるようにと作られた布製の絵本は小さな来園者に人気です。今後も園側と連携した活動が控える中、「自分たちの好きなことをやってほしいですね」と、活動を引き継ぐ後輩に想いを託します。

約20名のメンバーが在籍。中央がリーダーの松本みどりさん

東海大学チャレンジセンター 動植物園プロジェクト

東海大学農学部の学生が中心となり平成29年に発足。動植物園と連携し、園内の案内や解説板づくり、高校生や市民を対象としたワークショップを開催している

飼育員から聞き取りをし、チンパンジーの飼育方法について分かりやすく説明

チンパンジーの餌について、野菜の絵や文字も一針一針手づくりで作られた布絵本

LOCAL ～地域社会～

後世に伝えるべき「富合校区震災記録誌」が完成

富合校区自治会長会が手がけた「富合校区震災記録誌」が発行されました。制作期間は約２年。ページをめくると、校区の農道・市道、文化財などの被害状況や避難所対応、自治会長会の記録、炊き出しの食事提供内容までこと細かに記されてあります。「関係各所から写真を集めるのに苦労し、発行までに時間がかかってしまいましたが、ドキュメンタリーに近い内容になっています」と話すのは、制作の中心メンバーである前自治会長会会長の海平正俊(うみひらまさとし)さん。また現会長の平井光輝(ひらいみつてる)さんは、「後世に残すべき貴重な地震記録になりました」と語ります。

記録誌は富合校区の希望する全戸に配布。作成後は校区防災連絡会を立ち上げたり、ハザードマップの見直しをしたり、富合校区として防災体制の見直しにつとめています。「地震で体験した教訓を活かし、今後の災害対策に活かしてほしいですね」と事務局長の林田一弘(はやしだかずひろ)さんは期待を寄せています。

左から順に、前自治会長会会長の海平正俊さん、現会長の平井光輝さん、事務局長の林田一弘さん

約２年の制作期間を経て完成した「富合校区震災記録誌」

被害の大きかった図書館や公民館の被害・避難状況についてもまとめた

ART ～「復興」をキーワードにしたアート～

「自分ごと」として地域と関わり創造するよりよい社会

「まんがで知る教師の学び３ 学校と社会の幸福論」（さくら社）は、著者の熊本大学教職大学院の准教授前田康裕(まえだやすひろ)さんが、当時熊本市立向山小学校で教頭として直面した熊本地震の経験をもとに描いたまんがです。物語では、突然起きた大地震で続々と小学校に避難をする地域住民を前に慌てとまどう教頭や先生に対し「住民のことは住民にまかせてください」と自治協議会メンバーが声をかけ、みんなで力を合わせて問題解決に取り組む姿が丁寧に描かれています。「災害時に大切な『自助』『共助』『公助』の考えを地域の方から教えてもらいました。夏祭りや地域行事は人と人とのつながりを作っていたんですね」と前田さん。

著書は教職員向けの内容が中心ですが、主体的にまちづくりに関わる大切さについてもまんがでわかりやすく説かれています。

熊本大学教育学部美術科卒業後、小中学校教諭や教育センター指導主事、教頭を経て現職。「教師を目指す人にも読んでほしいです」

「まんがで知る教師の学び」シリーズは、教育書としては異例の売上部数。熊本市内の大型書店やインターネットでも販売中

地域住民の力強い言葉や行動、地震を機に変化したという教育論についても描かれている

VOICE ～読者の皆さまの「声」～

皆さんから届いたメッセージの一部（抜粋）をご紹介します。

復興だよりを読むことで、被災者支援のお知らせが良くわかります。新しい市民病院「災害に強い病院」が今秋開院ですね。近くを通る時に、着々と建設が進んでいるのを目にします。地震から約3年、熊本市民一人ひとりの頑張りで、熊本市も明るく元気になってきています。「がんばろう！くまもと」。

震災後2週間で退職が決まりましたが、3ヵ月してリハビリ職へ復職。より高齢者を支えたいと思いました。復興だよりは赤をポイントにおいたデザインが心強い印象です。「地域力」、大切だと感じました。また、HEALTHの「クロス スクワット」も早速やってみました。

復興だよりを読んで、市民病院の免震構造と一緒に給水システムが設置されることを知りました。被災をして水の大切さを痛感し、とても良い構造だと思いました。10月の開院を待ち遠しく思います。少しずつ少しずつ復興し、元の熊本以上のステキな町になれば良いなと思います。

震災後に関西から引っ越してきました。やっと住んでいる所に慣れましたが、近頃は日本のどこにいても地震が起きています。私達も高齢者の立場になり、いざという時に町内の防災情報と避難所への移動が素早く出来ることが重要です。そこで白川校区9町内会の方々の取り組みに感心いたしました。

読者プレゼント

トワ・グリュの「KUMAMOTOマカロンズ」 5名様

応募締め切り：4月30日(火)必着
郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢と
●復興エピソード ●復興だよりの感想
のどちらかを明記し、はがき、またはメール
（住所、アドレスは復興だより表紙下部に記載）
で復興総室宛へご応募ください。

※当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。
※応募いただいた個人情報は、商品の発送のみに使わせていただきます。